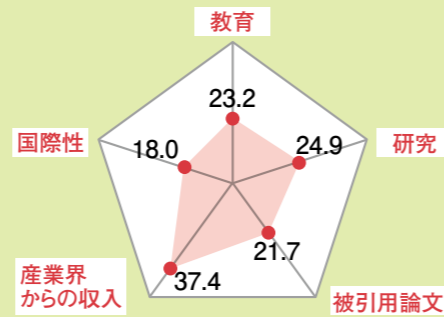




学生数 / 19791人 学部 / 理(一)、理(二)、薬、工、理工、基礎工、経営
 大学院 / 理学、薬学、工学、理工学、基礎工学、経営学、生命科学、イノベーション、国際防災科学
 ▶ THE 世界大学ランキング 2016-17 / 601-800位
 ▶ 同アジア大学ランキング 2017 / 151-160位
 ▶ 同世界大学ランキング日本版 2017 / 31位

指標	スコア	順位	参考データ
総合	21.5-30.6	601-800位	ST比率 / 25.1
教育	23.2	601-800位	
研究	24.9	401-500位	留学生の割合 / 1%
被引用論文	21.7	801-1000位	
産業界からの収入	37.4	501-600位	女男比 / 20 : 80
国際性	18.0	1001+位	



取り組み体制

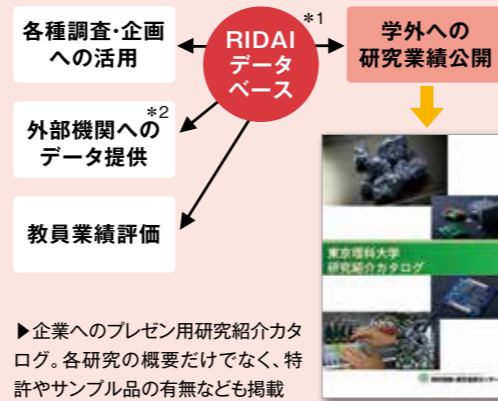
- ▶ 研究戦略・産学連携センターが学内の研究を支援、成果の社会還元を推進
- ▶ 経営企画部が、各種ランキングのデータ入力、向上施策を一括対応

分野	重点度	取り組み	指標
教育	◎	▶ 博士課程学生への経済支援(意欲ある学生への奨学金等) ▶ 収益事業の拡大(ベンチャーファンドの設立等)	・博士課程学生数 ・ベンチャーファンド
研究	◎	▶ 研究戦略・産学連携センターによる研究支援(外部資金獲得額等) ▶ 総合研究院を設置し、横断型研究の推進 ▶ 教員評価制度の改訂(業績、資金獲得などにより昇給額が増加) ▶ 国際的な先端研究拠点の設置を検討 ▶ 研究予算の重点配分	年間外部資金獲得額
被引用論文	○	▶ 研究戦略・産学連携センターによる研究支援(成果の広報等) ▶ 若手研究者国際学会派遣事業(博士号取得10年以内の研究者に国際学会旅費補助)	—
産業界からの収入	△	▶ 研究戦略・産学連携センターによる研究支援(産学連携プラン) ▶ 研究者情報データベースの整備と発信 ▶ 教員評価制度に反映	年間外部資金獲得額
国際性	△	▶ 若手研究者国際学会派遣事業(博士号取得10年以内の研究者に国際学会旅費補助) ▶ 国際部の設置(送り出し・受け入れ体制整備)	各研究室に1名以上の外国人受け入れ

*各大学による重点度 ◎:より一層伸ばす強み ○:課題あり △:今後力を入れていきたい

注目! URAの活用と研究のDB化で企業との距離を縮める

研究戦略・産学連携センターに属する約30人のURAなどの専門スタッフは、企業出身者や、現役エンジニアの経験者が多く、産業界とのパイプをつくりやすい。各教員の研究について一定の自由度を確保しつつ、ビジネスプロジェクトとして成り立たせるようコーディネートしており、外部資金の獲得額は増加中だ。研究者情報を一元管理するデータベース「RIDAI」の情報は、産学連携のマッチングに活用しやすいように整備されている。また同データベースは外部へのデータ提供のほか、各種調査・企画への利用、教員業績評価にも利用されている。



▶ 企業へのプレゼン用研究紹介カタログ。各研究の概要だけでなく、特許やサンプル品の有無なども掲載

*1 <https://www.tus.ac.jp/ridai/doc/ji/RUIA01.php> *2 国立研究開発法人科学技術振興機構の研究開発支援ディレクトリへのデータ提供等

東京理科大学

組織的な産学官連携の推進

起業家教育と研究のビジネス化

東京理科大学では、培ってきた教育力や研究力を国内外に周知し、国際競争力を高めようとして、全学的、戦略的な取り組みを進めている。



常務理事 岡村総一郎

おかむらそういちろう ● 1984年東京理科大学工学部卒業。1989年同大学工学部電気工学博士課程修了。同大学助手、山口東京理科大学講師、奈良先端科学技術大学院大学助教授などを経て、2005年東京理科大学理学部応用物理学教授に就任。2015年から現職。専門は強誘電体薄膜。

産業界を高める人材を M-I-T を模範に育成

本学は中長期計画で、「日本の理科大から世界の理科大へ」という方針を打ち出しています。本学の考える国際競争力とは、世界で通用する研究力と人材を育てる教育力。範としているのはマサチューセッツ工科大学(MIT)です。MITは研究成果をビジネス化するスキームに優れ、産業界に貢献しています。一方、日本の理工教育は知識や技術は教えてきましたが、それをビジネスに転換する方法やマネジメントについては教えてきませんでした。日本の産業界の力が落ちてきている今、大学が起業家マインドを持った人材を育て新たな産業を生み出すことが必要でしょう。そこで起業家教育に力を入れ始めました。

核となるのは、2016年に設立したTokyo Entrepreneurship & Innovation Center(TEIC)です。MITのビジネススクールであるスローンスクールの教育プログラムを参考に、異なる専攻の学生がチームで学内のシーズをビジネス化するトレーニングを積むことで、研究と産業を進展させる人材を育成します。

教育・研究リソースを連携させ活性化

ランキングの中で重視しているのは「教育」と「研究」です。私の研究室にはスタンフォード大学からの留学生がいましたが、目標の置き方などに見習うところはあります。本学の「教育」はすでに国内の高校や企業からは高い評価を得ていますが、課題は海外での認知が低いことです。そのため、今まで各部署で行っていた各種ランキングへの対応を経営企画部で集約し、世界に向けて戦略的なブランディングを行っていきます。「Building a better future with science」という建学の精神のもと、科学技術で世界的な課題を解決するため、「研究」をさらに向上させていきます。各教員の研究努力を促す施策のほか、全学的な組織でも取り組んでいます。その一つが研究戦略・産学連携センターの設置です。企業出身者を主としたURAなどの専門スタッフ約30人が所属し、産学連携や研究の事業化、競争的資金の獲得や地域連携などを、TEICの協力も得てコーディネートします。また、特徴的な取り組みとして総合

内の高校や企業からは高い評価を得ていますが、課題は海外での認知が低いことです。そのため、今まで各部署で行っていた各種ランキングへの対応を経営企画部で集約し、世界に向けて戦略的なブランディングを行っていきます。「Building a better future with science」という建学の精神のもと、科学技術で世界的な課題を解決するため、「研究」をさらに向上させていきます。各教員の研究努力を促す施策のほか、全学的な組織でも取り組んでいます。その一つが研究戦略・産学連携センターの設置です。企業出身者を主としたURAなどの専門スタッフ約30人が所属し、産学連携や研究の事業化、競争的資金の獲得や地域連携などを、TEICの協力も得てコーディネートします。また、特徴的な取り組みとして総合

研究院があり、各研究者が学部の壁を越えた横断型研究を進めています。将来的には理工系学部と経営学部の連携による、科学技術とマネジメントを融合させた本校らしい研究が期待できます。こうした研究成果を社会に広めるため、研究者情報は全てデータベース「RIDAI」に一元化し、Web公開のほか、主要な研究についてはカタログ化も行っています。本学を含め日本の論文が海外で引用されにくい理由の一つは、世界的な研究コミュニティに入っていない研究者が多いからです。そこで今後世界で戦える人材を育てようと、大学院生が国際学会に参加する際の旅費を支援しています。現在、国際学会において英語で発表をする大学院生は2割程度ですが、個人的にはこれを5割程度まで高めたいと考えています。